

令和2年12月18日

## 「カンボジア国立健康科学大学と本学の看護学生による看護研究交流リモートミーティング」を行いました

香川大学は、カンボジア政府との二国間契約に基づく JICA 草の根技術協力事業などの連携関係を経て、国立健康科学大学 University of Health Science(UHS)と 2019 年 10 月に学術交流協定を締結しました。本学医学部看護学科は、2019 年 8 月に看護学生と教員が UHS の医療技術学部看護学科を訪問し、今年度は一層交流を深める段階となっております。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学生の相互訪問交流は停止しています。

今回、医学部開設科目 4 年生を対象とした「看護研究」において、昨年現地を訪問した 4 年生が UHS 学生 33 名の調査協力を得て看護研究（国際・慢性期成人看護学分野・清水教授担当）を完成させ、その報告を兼ねてリモートミーティングを実施しました。

12 月 7 日（月）慢性期成人看護学分野等の 6 名の学生が医学部国際交流委員会（和田委員長他 7 名の委員）の陪席のもと、UHS の Ms. Horn Vandy 国際交流委員他 15 名の学生と ZOOM を用いたリモートミーティングを実施しました。学生の発表課題は「カンボジアの看護学生の看護師をめざす動機：日本の看護学生の動機との比較」です。この課題は、学生が他の 2 名の看護学生とともに、昨年カンボジアを訪問し現地看護学生と交流した際に、彼らが、出身村や町を代表して学び、国内の貧困や医療体制の不十分さから国民を救おうとする姿勢に感銘を受けたことに端を発します。そこで、カンボジアと日本の看護学生がなぜ看護師になろうとしているかの「職業選択動機」を比較しました。報告では、カンボジアの学生は国に貢献しようとする動機や長年のあこがれの職業であることの動機が特徴であり、一方、日本の看護学生は経済的自立や人々の役に立ちたいと考えていることが特徴として挙げられました。この報告の後に UHS 学生から二国間の違いを研究することの意義などについて質問がありました。

今回の交流を通して、互いの国に関心を高めることによって、相互信頼や自らの置かれた状況の客観的な姿を理解することにつながるものと考えられます。国際交流は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた教育活動ですが、可能性を探索しつつ、一層国際性を学ぶ環境を整えていく必要があるといえます。

## 【当日の風景】

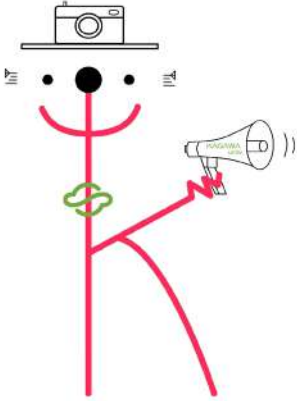


左上：発表と進行を行う 4 年生の学生

右上：医学部看護学科棟教室でのリモート状況

左：実施後との参加者





➤ 問い合わせ先

香川大学 医学部 慢性期成人看護学 清水裕子

TEL : 087-891-2240 FAX : 087-891-2240

E-mail : [hshimizu@med.kagawa-u.ac.jp](mailto:hshimizu@med.kagawa-u.ac.jp)